



学校だより1月号 つなぐ



抱負

～ 年の始まりに思うこと ～

新年を迎え、心新たに学校が始まりました。静岡県では1月になるとすぐに中学校入試が行われます。その翌週には大学入学共通テストの実施という流れになります。令和8年度に向けた準備が本格化するということですが、一方で令和7年度は3月末まで続きます。生徒の皆さんにとっては大切な1年のまとめを行う時期となりました。校長訓話の中でもお話しはしましたが、自ら設定した目標の達成に向け、成果が見える形でつながるよう最後までしっかり取り組んで欲しいと願っています。そのためにはまずは心身の健康管理から行うようにしてください。学校での生活が中心となった習慣作りをもう一度して欲しいと思います。

ところで、新年となったのですから、やはりどのような年になるのか気になるころではあります。そこで2026年はどのような年になると言われているのか。干支についてインターネットで調べながら見ていきます。今年の干支は丙午（ひのえ・うま）になります。丙（火の兄）は太陽のような明るさ・情熱・決断力を象徴し、物事を大きく広げるエネルギーを意味すると言われています。午（うま）といえば、音から馬を想像し、躍動・成功・勝負運を象徴すると言います。そのようなことから2026年の丙午は、火の力が重なることで情熱や勢いが高まり、太陽のようにエネルギーが満ち溢れる年で、新しいことやあきらめかけていたことに挑戦すると良い結果につながると言われるとともに、変化への対応力が問われやすく、自ら動くことでチャンスをつかみやすい年であるとも言われています。皆さんはどう思いますか。激動の年の幕開けといった印象ですね。

3学期始業式の際に、私は「変化・挑戦・冷静」という言葉をキーワードに生徒の皆さんにお話ししました。その背景には最近では「まさか」「想定外・想定以上」という言葉が通用しないのは当然ですが、歳を重ねる中で得た知識や経験で解決できたことができなくなっていると感じているからです。変化への対応は機械に任せ、文章の整理や新しい発想へのヒントを得るにはAIを活用する。解決すべき問題を先送りにした結果、新しい時代に対応するための新たな課題へと変化しているなど以前と同じ方法で解決はできないといった具合です。5年程度の短い間隔で物事は変わっており、分野に関係なく再編・統合の繰り返すため、何が正解なのか疑問を持ちつつ、試行錯誤しながら決断の速さが求められるようになりました。つまり柔軟な行動が必要であると私は分析しています。

変化の激しい時代であるからこそ、物事の見方や考え方を学び、自らの資質や能力を知ることが必要となるでしょう。そうすると学びの基礎や土台を作る教育や研究はこれからますます重要になると思います。人生百年時代。歳を重ねたとしても学ぶことは継続することが大切であるという根本的な姿勢を作り、社会への関心を持ちながら、自らの生き方について考えていきたいものです。何かをしようとする時、遅いということはありません。自分と向き合いながら、新たなことにチャレンジしてみましょ。本年が良い1年となりますように願っています。